

11月を「霜月」と言います。私の解釈では「霜の降りる時期」だからそう名付けられたと思っています。ところが、今年は霜どころか夏日に近い気温の日々が続いています。もちろん、陰暦なので、現在の時期で言うと11月下旬から12月中旬のことを指すようですので、寒い気候が好きな私としては、これからの冷え込みに期待しているこの頃です。そんな中、本校の前庭に「カリンの実」が実っているのを発見しました！



前庭のカリンとともに

さて、今回は「校長としての覚悟」です。

10月中旬の3日間、茨城県つくば市にある「独立行政法人教職員支援機構」にて研修の機会をいただきました。全国から集まった先生方や支援機構の職員の方々との「対話」と「振り返り」により、学校課題とその解決方法についての示唆をいただきました。例えるなら霧が晴れて遠くの景色が見えてきた状況です。

『明日の生徒の笑顔のために』

今年の私のキャッチフレーズですが、生徒の笑顔のために教師ができることばかり考え、生徒の声を十分に聞いていませんでした。教師側の経験をもとに「こうすれば笑顔になるはずだ」という思い込みで一方的に対応しようとしていたということです。現行の学習指導要領で求められている「生徒を主語とする高等学校教育を実現する」という視点が無いまま、半年が過ぎてしまったことを大変申し訳なく、恥ずかしく思います。生徒が主体的に行動した際に、想定を超える成果が見られることをこれまでの教員経験でわかっていたはずなのに…。それに改めて気づいた中央研修でした。



3日間の「対話」と「振り返り」の仲間

「どうすれば、生徒が主体性を発揮できる学校になるか？」

今後はこのフレーズをテーマにして教職員が「対話」と「振り返り」を繰り返しながら「大人の探究」を行い、正解が1つとは限らない学校課題に対して「納得解」を見出す活動をしていきたいと考えています。

覚悟を決めて「生徒を主語とした学校経営」に取り組もうと考えています。



廊下の窓の換気促進アイテム

現在、新型コロナに加えてインフルエンザも流行しつつあります。ウイルス対策に換気が有効であることはこの3年間で分かりましたが、寒くなると換気が徹底しません。そこで、聖高名物の換気促進アイテムの登場です。先生方の特徴や口癖を見事にとらえた生徒の作品に、思わず笑みがこぼれ窓を開けたくくなります。他にもたくさんありますので本校にお越しの際には、ぜひ廊下の窓にご注目ください。

主体性発揮のための方法のひとつは、楽しみながらやることかなと思います。